

8月定例活動 竹クラフト講座



8月25日、猛暑の中クーラーのきいた山根コミセンで「竹クラフト講座」を行いました。

秋のさまざまなイベントで活用できるように今年は「ガリガリ竹コプター」をみんなで作ってみました。会員は初めての作品のためかなり苦戦しましたが、昼までに各自が2本ずつ作ることができました。

昼食後は各自が竹の箸などを作り、

2時頃に終了しました。参加者の皆さんお疲れ様でした。(森 勝)



9月定例活動

柴刈り大会・いのちの谷整備



く手入れの行われていない「いのちの谷」につながる森の整備を行いました。

以前柴刈りをしたときは散策しやすく、コナラが落葉した冬場には日向ぼっこに最適の空間となっていたのに、自然の再生力はたいしたもの、今ではサカキ、ヤマハゼ、ソヨゴ、アラカシなどの実生が繁茂し寝転ぶスペースもありません。それから、今年は残念なことに、コナラの大木がカシナガの被害にあい樹齢(じゅみょう)は風前のともし火の状態。コナラばかり多くなってしまった最近の里山風景に一定の限界が来たのかと心配になります。

そうは言うものの、作業は林内に繁茂するサカキ、ヤマハゼ退治を中心とし、いのちの谷との境界にそれら柴材を集積し、人の空間と生き物の空間を分離する前回同様のパターンで取り組みました。中には直径15cmくらいのヤマハゼもあり、羽状複葉の葉を見るだけで

皮膚にかゆみを生ずる人にとってはずいぶん散策しやすい森となりました。

それから、コナラの萌芽更新を促すために、幹からヒコ生えが多く出て樹勢の弱っているものや、込み合って枯れたコナラを中心に5本程度除伐しました。枯れたもの以外は、1月に行う天白森のフィールドサーキットで『しいたけ菌打ち』に使うように1m程度に切り森に寝かせて置きました。

いのちの谷の整備が終わった後には山根口近くの竹林で、倒れ掛かった竹や生長の悪いものを再度除伐して、こちらも散策しやすくなりました。昼からも暑さの中での作業で、全員ぐったり。持ってきたお茶も空っぽとなりました。

家へ帰ってニュースを見てまた疲れがどっと出ました。なんと名古屋の最高気温33.1℃、平年より6.5℃も高かったそうです。どうりで汗が沢山でるはずです。(大館 学)

秋分の日を翌日に控えた9月22日、快晴。まだまだ暑いこの日は、しばら

シリーズ『森の住人たち』⑱

～アサギマダラ～ その2 遠路はるばる、名古屋へようこそ!



フジバカマを訪れたアサギマダラ

10月7日午後、相生山緑地(名古屋市天白区)でアサギマダラ・マーキング調査を行っていた。飛来が途絶えたので、おしゃべりに興じていた時だった。

「アサギマダラ！」

Wさんが、突然叫ぶように言葉を

タテハチョウ科マダラチョウ亜科 開長 10cm
分布 日本全土 食草 キジョラン、カモメヅル、イケマなど

発した。彼の視線は、私と並んで立つTさんの後方に注がれている。速やかにかつ敏捷に捕虫網を操るTさん。入った! ナイス・キャッチ! ふたりの見事な連携プレーに思わず拍手! アサギマダラを慎重に扱いながら捕虫網から取り出すTさんが、驚きの声を上げる。

「ハセガワ・・・あ、日光だ」

左翅には「ハセ川」、右翅には「日光 8.24」の文字がある。つまり8月24日にハセ川さんという方が、日光でマーキングをしたアサギマダラであることが読み取れる。遠路はるばる44日の旅をしてきたアサギマダラに、思わず労いの言葉をかけたくなる。

「おつかれさま、名古屋へようこそ！」

奇しくも同日、平和公園(名古屋市千種区)では「山ZAO 8.25 MW」の標識のあるチョウが再捕獲された。後日、山形県蔵王で実施された自然観察会で、MWさんが8月25日にマーキングした個体であることが判明。

アサギマダラは、日本全国どこにでもいるチョウである。とはいっても、好みの環境がある。吸蜜植物が植生していること、翅を休める森の空間があること等々、自然に恵まれていることが条件のようだ。彼らが選択する場所は、私たち人間が憩いたいと願う場に、どこか似ている。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)